

バスケットボールにおけるリバウンドの一考察 ～シュート位置とボックスアウトの関係性～

青木 英典 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 吉川 文人

キーワード：リバウンド,ボックスアウト,シュート位置

1. 緒言

バスケットボールにおけるリバウンドボールのシチュエーションは,試合を通して数多く発生することから,リバウンドは重要視されている.これまでシュート位置とリバウンドの研究やリバウンドボールの跳ね方・距離の研究が数多くなされている.ボックスアウト(ディフェンスがオフェンスを抑える技術)は,ディフェンスがリバウンドボールを確実に獲得するために行う重要な技術であるが,ボックスアウトの研究については十分になされていない.そこで本研究では,シュート位置とボックスアウト時におけるディフェンダーの体の向きやターン方向に着目し,獲得率が高い方法についての基礎的資料を収集することを目的とした.

2. 研究方法

対象：平成25年度関西学生バスケットボールリーグ戦 12試合 びわこ成蹊スポーツ大学 男子バスケットボール部

方法：試合映像を再生し,シュートからリバウンドまでのシーン(リバウンドシーン)を抽出する.予め,そのシーンを以下に示す12通りのボックスアウトの状況類型,すなわち①正面で接触し(FC),フロントターン(FT)&ファウル(F),②FC&リバースターン(RT)&F,③FC&FT,④FC&RT,⑤接触なし(NC)&FT,⑥NC&RT,⑦NC&背面向き&FT&F,⑧NC&背面向き&RT&F,⑨背面で接触し(BC)&FT,⑩BC&RT,⑪NC&背面向き&FT,⑫NC&背面向き&RTに分け,類型毎の獲得率を算出した.

3. 結果・考察

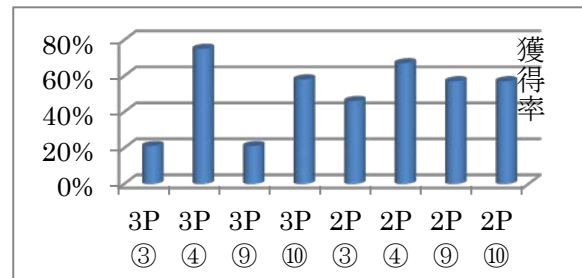


図1. 3P・2Pにおけるボックスアウトの獲得率の比較

図1は,接触のあったボックスアウトの獲得率を示したものである.図1からわかるように,オフェンスに対して正面で接触し,リバースターンを行うボックスアウト(④)が2PSと3PS共に最も確率よくリバウンドを獲得している.このことから,ボックスアウト時は,オフェンスの動きを正面で止め,オフェンスの動きに対してリバースターンをすることが適していることが分かった.また,正面からリバースターンを行うことで,ボールの軌道を視野に入れることができ,落下位置も予測できると考えられる.

4. まとめ

本研究では,ボックスアウトの際,オフェンスの動きを制限し,ボールの軌道や落下位置が予測できる方法が高い確率でリバウンドボールを獲得できることが分かった.

引用・参考文献

1)武井 光彦(1984)バスケットボールのリバウンドボール獲得についての一考察